



汐見の和

横浜市立汐見台小学校
令和5年6月26日
学校だより 7月号

【学校教育目標】人やものに豊かにかかわり、ともに未来を創る子
電話 045-761-1561 FAX 045-754-6409
ホームページ <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shiomidai/>



先人の教えに学ぶ “レジリエンス”

校長 犬塚 真

「五月雨」と書いて「さみだれ」、「さつきあめ」とも読むようですが、これらは旧暦の時代に生まれた言葉です。旧暦の5月は現在の6月にあたるので、「五月雨」はもともと梅雨の長雨を指すそうです。同様に「五月晴れ」という言葉も梅雨の合間に訪れる青空という意味で使われていたそうです。

さて、6月13日から14日にかけて、6年生の子どもたちと日光修学旅行に行ってきました。台風の影響で天候が心配されていましたが、幸いなことに傘をさす場面もほとんどなく、すべての行程を予定通り進めることができました。初日は華厳の滝や湯滝を見学し、湯ノ湖付近の散策では青空も見られました。子どもたちは奥日光の美しい景色や湯元の源泉、足湯などを楽しんでいました。

2日目は、世界遺産にもなっている日光東照宮の見学。その中にある^{しんきゅうしゃ}神厩舎という建物には三猿の彫刻があります。眠り猫や陽明門の華麗な彫刻と並んで有名な「見ざる・聞かざる・言わざる」の三猿は、好奇心旺盛な幼少期に、悪いことを見たり、言ったり、聞いたりしないで、良いものだけを受け入れよという教えを暗示しているといわれています。また、この猿の彫刻は全部で8枚あり、1枚目から8枚目が一続きとなることで人の生涯を表しています。三猿の彫刻はその2枚目にあたります。

私が個人的に好きなのは5枚目の彫刻で、ここには大人になった猿が困難に直面した姿（崖の下をのぞき込んでいる姿ともいわれています）と、それを慰め励ます仲間の猿が描かれています。更にその右側には勇ましい表情で崖を飛び越えようとしている猿の姿。彫刻は全体的に左から右へ進むように



配置されているので、この1枚の中にも仲間の支えを得ながら挫折を克服していくストーリーが見て取れます。

最近、教育の分野でもレジリエンスという言葉が用いられるようになりました。レジリエンスとは、逆境や困難に負けない心の弾力性であり、変化が激しく先行き不透明な現代社会を生きる上で重要な力のことです。この力は幼少期からの失敗と立ち直りの経験によって生まれ、その過程では、周囲の大人が子どもを信頼して見守り続けることや、子どもが安心して助けを求められる環境を整えることが大切だとされています。これは、問題解決の際に他者と協働することとも大きく関連し、困難な状況に直面した時には、周囲に相談したり助けを求めたりしながら、心の負担を軽減しつつ解決に向かう能力につながっていきます。

本校でも子どもたちの問題解決力を高めるために、試行錯誤する姿勢や協働的に解決策を見出す力、多様性を享受し互いの考えを発展させる力などを子どもたちに身につけさせたい資質・能力として大切にしています。

令和の時代に入り、子どもたちが逆境に負けないレジリエンスと他者と協働する力を身につけることが重要視されてきていますが、遥か昔の江戸時代の教えが現代社会にも通じるメッセージとなっていることに、先人の偉大さを感じるものです。